

2024年度（令和6年度）高丘小中一貫教育校

小中一貫教育校では、小中学校の教員が9年間を通じた教育課程を編成し、系統的に教育活動を推進していきます。高丘小中一貫教育校は、併設型の小中一貫教育校で、義務教育学校とは違い、それぞれの学校に校長と教職員集団があります。学校教育目標はそれぞれにあるものの、小中一貫校としての教育目標を同じくし、その目標に向けてそれぞれの学校が教育活動に取り組んでいきます。



高丘小中一貫教育校
明石市立高丘東小学校

1 教育目標

(1) 高丘小中一貫教育校の教育目標

高い志をもち、未来を担う子どもの育成

校訓

強く・すなお・思慮深く

(2) 学校教育目標

自ら学び 心豊かに たくましく生きる ひがしっ子の育成
－楽しい学校・温かい学校・開かれた学校－

(3) 学校の教育目標を達成するための基本方針

- ・子ども一人一人が大切にされ、個性が尊重される学校
- ・明るく元気な挨拶が交わされ、誰もが生き生きと活動している学校
- ・授業の質が高く、子どもに分かる、できるを保障する学校
- ・学びに心ざわしい環境が整い、心が落ち着く美しい学校
- ・学校・家庭・地域社会が連携し、地域全体で子どもを育てる学校

2 指導の重点

ア 各教科

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図り、校内研究テーマを常に意識した授業展開を行うことにより、確かな学力の育成を図る。

イ 道徳

望ましい道徳的価値と出あわせ、深まりがある道徳授業を展開する。道徳的価値を实践する場としての特別活動や体験活動の充実を図る。他者を思いやる温かい心を育む日常生活をとおして、道徳教育の充実を図る。

ウ 特別活動

異年齢や異世代での活動、異文化や異なる価値観との出会い、動植物を愛し育てる活動をとおして、共に生きる心を育てる。

エ 総合的な学習の時間

自ら課題を見つけ、探究するとともに学び続けようとする意欲を育てる。

オ 外国語、外国語活動、英語活動

国際理解に関わる交流を大切にしたい体験的なコミュニケーション活動を行う。友だちとの関わり・他者理解や自尊感情などを高め、他者とのコミュニケーションを図る楽しさを体得させる。

カ キャリア教育

目標をもち、具体的な計画を立て、それに向かって進んでいく力、コミュニケーション能力、課題対応能力を育てる。

〈重点項目〉

- 不登校の解消(多面的,多角的な子ども,保護者理解。関係機関との緊密な連携など)
- 特別支援教育の充実(子どもに分かる,できるを保障する授業設計など)
- 小中一貫教育校としてのカリキュラム・マネジメントの推進(年間指導計画のPDCA,ファミリーの活性化など)
- 教職員の綿密かつ円滑な連携(Tタイムデー,タイムマネジメント,メンタルヘルスなど)

高丘小中一貫教育校は、2021年(令和3年)4月に開校しました。新型コロナウイルス感染症が流行している最中の開校であったため、児童生徒や教員間の交流等が困難な状況でした。しかし、その中でも他校にない特色ある取組を推進してきたところです。2024年度(令和6年度)については、次のような特色ある取組を推進していく予定です。

【高丘小中一貫教育校の特色ある取組例】

① 全学年 30 人程度学級編成 (1 学級の児童数が 30 人程度で少人数学級編成)

- ・明石市の他の小学校においては、1 年は 30 人学級編成(明石市独自)、2～4 年は 35 人学級編成、5・6 年は 40 人学級編成とされ、一学級の上限児童数が決まっている。

② 小学校 1、2 年生に年間 10 時間程度の外国語活動を実施

- ・通常は、学習指導要領に基づき、3、4 年で外国語活動、5、6 年で英語の学習を行っている。高丘小中一貫教育校では、1 年から外国語教育を組み込み、外国語コミュニケーションを主とした教育の充実を図る。

③ 1～6年まで外国語専科教員による授業の実施

- ・他校では、学級担任が外国語活動、外国語の授業を行うことが多い。高丘小中一貫教育校では、より専門性の高い外国語専科の教員2名が外国語指導補助員（以下「ALT」）2名と授業を行う。
- ・中学校で英語を指導していた高丘西小学校在籍の外国語専科教員が、本校と高丘西小学校の5、6年の授業を行う。
- ・もう一人の外国語専科教員が、本校と高丘西小学校の3、4年の授業を行う。
- ・年間10時間程度の1、2年の外国語活動においても外国語専科教員がALTと共に授業を行う。

④ ALTを2名配置

- ・外国語専科教員2名に対して2名のALTが配置される。そのため、児童とALTとのコミュニケーションの場面も多くなることが予想され、生きた英語にふれる機会を増やしている。

⑤ 6年家庭科において、学期に一単元、高丘中学校の家庭科教員が授業を実施

- ・調理実習や裁縫の授業など、学期に一単元を高丘中学校の家庭科教員が、出前授業として6年生に授業を行う。
- ・6年生が中学校教員と授業等をとおしてふれ合うことで、中学校入学後の中1ギャップの解消につながると考えられる。また、中学校側も入学してくる児童について理解し、スムーズな入学受け入れにつながると期待できる。

⑥ 高丘中学校体育科教員による出前授業

- ・高丘中学校の体育科教員が体力向上の取組や体育授業の支援等を行う。

⑦ 県立明石北高等学校と連携し、学習等に関する交流を図る

- ・今年度も6年生対象に県立明石北高等学校の自然科学科生徒によるプログラミング学習の交流を予定している。昨年度は、高校生のプログラミング作品を見た当時の6年生は、作品に対する感動と高校生へのあこがれの念を抱くことができた。
- ・3年の環境体験学習において、地域の特色をいかした生物多様性について、高校生から支援活動を行ってもらう予定である。
- ・その他、県立明石北高等学校と児童生徒の交流等について検討し、異世代交流を行い、知識の習得だけでなく情意面などの心の育ちも期待している。

⑧ 中学校教員と小学校教員による授業参観交流や合同研修会の実施

- ・教員同士のオープンスクール日を設定し、校種をこえて互いの授業参観を行う。
- ・中学校教員と小学校教員がそれぞれの教科部会に所属し、義務教育9年間の児童生徒の姿を見据えた授業の在り方を検討していく。
- ・小学校と中学校の全教員が集まり、研修会等を実施し、互いに情報共有を行っていく。

⑨ 学習に関すること・児童生徒の主体的な活動に関すること・生徒指導に関することの三つの推進部会をそれぞれ学校が受けもち推進

- ・三つの推進部会が中心となって、義務教育9年間で目指す子ども像への実現に向けて、教員同士が共通の認識をもって取り組む。

⑩ リーダー会議の実施

- ・校長、各校の推進教員、市教育委員会が、各推進部会の取組状況や課題、高丘小中一貫教育校としての方向性や今後取り組む内容について、協議を行う。

⑪ 高丘小中一貫教育校としてコミュニティースクール（学校運営協議会）を推進

- ・他校では、一つの学校において学校運営協議会を設置している。高丘小中一貫教育校では、高丘中学校、高丘東小学校、高丘西小学校の三校が一つの学校運営協議会を設置し、それぞれの学校の諸団体の代表と各校の校長、推進教員が委員となって年間四回の学校運営協議会を開催している。
- ・学校運営協議会では、各学校の経営方針について承認をもらう。また、各校の児童生徒や取組内容について報告するとともに、諸団体の代表の方から高丘校区の状況や児童生徒の姿について発言してもらう。

⑫ 高丘小中一貫教育校特認校制度による他校区からの入学

- ・明石市内での小中一貫教育校は高丘校区だけのため、令和3年度の開校時には、明石市在住の小・中学生にも入学・転入の募集を行った。令和4年度からは、小学校新1年生だけに募集を行っている。今年度、本校の40名の児童が通学区域特認校制度を活用して本校に通学している。

これらが、令和6年度の高丘小中一貫教育校の特色ある取組例です。今後も高丘中学校・高丘東小学校・高丘西小学校が連携し、小中一貫教育校の取組等を検討していく予定です。

小中一貫教育校の取組だけでなく、本校の子どもたちの状況について本校ホームページにて紹介しています。

今後とも、本校教育について、ご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。